86 この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり４本

試読・購読はこちらから

2021年12月26日号　　編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

連合初の女性会長　芳野友子さん　破り続けた「ガラスの天井」

26日（日）＝1、3面

これまでの労働組合は男性中心の組織でしたが、連合の会長に今年10月、芳野友子さん（56）＝**写真**＝が就任しました。１９８９年の連合結成以来、女性のトップは初めてです。芳野さんは「女性がトップになる意義を見せたい」と意気込んでいますが、労働組合の体質を変えていくには多くの「壁」が立ちはだかっています。また、今秋の衆院選を巡っては、共産党を手を組む野党共闘に否定的な発言を繰り返し、注目されています。船出した「芳野連合」はどこを目指しているのか。労働問題を専門とするベテラン記者が、連合初の女性会長に迫ります。

特集ワイド

この場所から

アキバのメイドカフェ

27日（月）＝夕刊特集ワイド

東京・秋葉原はアニメやゲームの聖地として広く知られています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、一時は閑散としていました。感染が押さえ込まれる中、再び戻ってきた人をメイド姿の女性たちが出迎えていました。「仮想空間」と「現実」が交錯する通称・アキバは、世界的危機に直面しながら、どのように変貌しているのでしょうか。

【写真説明】メイドカフェのステージでお客を魅了するメイド姿の女性＝東京都千代田区で、竹内紀臣撮影

連載「明日はここに～コロナ禍を生きる」

31日（金）から6回連載＝社会面

２０２０年に始まった新型コロナウイルスの猛威は社会の風景を一変させ、経済にも打撃を与えました。一方で人々の生きる姿に目をこらすと、それぞれの「コロナ禍」「ウィズコロナ」があります。人々はどんな苦境を乗り越え、どんな一歩を踏み出そうとしているのでしょうか？

31日朝刊からスタートする予定の連載「明日はここに～コロナ禍を生きる～」では、模索する人たちの姿を描きます。

連載「オシント新時代～荒れる情報の海」

31日（金）から6回連載＝1、3面

デジタル時代に生きる私たちは、情報の海で暮らしています。政治・外交分野から身近な暮らしに至るまで、その多くは「公開情報」。しかしその中には偽情報のほか、ＳＮＳなどを利用した情報操作もあります。一方で公開情報を基に防災などへの活用を試みる市民の動きもあります。誰でもアクセス可能な情報の真偽を見極め、活用する「オシント」（オープンソース・インテリジェンス）が重要な時代になりました。オシントの現状と行方を考える連載をスタートします。

竹橋の窓辺から

編集後記

２０２１年も気づけばもう年の瀬。今年もコロナに翻弄された１年でしたが、コロナ禍だからこそ、暮らしにつながるニュースの大切さと、それを届ける新聞の信頼性について考える機会が多かったように思います。

来年２月21日に、毎日新聞は創刊１５０年を迎えます。２月には紙面での記念企画やオンラインイベントが目白押しです。「記事すごー」も引き続き心を込めてお届けします。ご期待ください。

（古谷亘）

毎日新聞 150 2022年2月21日 毎日新聞創刊150年

※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。